— 観 察 記 録 —

北海道天売島におけるミヤマヒタキ *Muscicapa ferruginea* の 国内最北観察記録

北沢宗大^{1,*}・青木大輔²・島崎 敦³

¹ 北海道大学農学部 〒060-8589 北海道札幌市北区北9条西9丁目

² 北海道大学理学部 〒060-0810 北海道札幌市北区北10条西8丁目

³ 北海道大学農学院 〒060-8589 北海道札幌市北区北9条西9丁目

(2015年1月9日受付; 2015年11月9日受理)

キーワード: ミヤマヒタキ, 北海道, 天売島, 北海道初記録, 最北観察記録, *Muscicapa ferruginea*.

日本鳥学会誌

Japanese Journal of
Ornithology

© The Ornithological Society
of Japan 2016

Munehiro KITAZAWA^{1,*}, Daisuke AOKI², Atsushi SHIMAZAKI³. A record of Ferruginous Flycatcher *Muscicapa ferruginea* on Teuri Island, Hokkaido Prefecture; the northernmost record in Japan. Jpn J Ornithol 65: 47–50. (2016)

Key words: Ferruginous Flycatcher, Hokkaido Prefecture, Teuri Island, Northernmost record, First record, *Muscicapa ferruginea*.

¹ Faculty of Agriculture, Hokkaido University, Kita9, Nishi9, Kita-ku, Sapporo-shi, Hokkaido 060-8589, Japan.

² Faculty of Science, Hokkaido University, Kita 10, Nishi 8, Kita-ku, Sapporo-shi, Hokkaido 060-0810, Japan.

³ Graduate School of Agriculture, Hokkaido University, Kita 9, Nishi 9, Kita-ku, Sapporo-shi, Hokkaido 060-8589, Japan.

1. 種名・観察個体数: ミヤマヒタキ *Muscicapa ferruginea* 1個体.

2. 観察者名: 北沢宗大, 青木大輔, 島崎 敦.

3. 観察日時・場所: 2014年5月25日 11時55分頃から13時頃まで, 及び14時頃から15時頃まで, 北海道苫前郡羽幌町大字天売字富磯, 天売島の南東部を流れる富磯沢川の砂防ダム周辺(44°25'35"N, 141°19'21"E).

4. 観察距離: 20–50 m. 観察には8倍の双眼鏡を用い, 撮影はデジタル一眼レフカメラに35 mm換算で640 mmのレンズを装着して行った.

5. 観察した環境: 天売島は対岸の羽幌港から西に30 kmほどの日本海上に位置する有人島である. 本個体は, 富磯沢川の砂防ダム周辺のトドマツ *Abies sachalinensis* の人工林縁で観察された. 砂防ダムの水際と下流側の林縁にはイタヤカエデ

Acer mono, シナノキ *Tilia japonica* などの広葉樹があり, 林床にはオオイタドリ *Polygonum sachalinensis* が生えていた.

6. 形態に関する記述: 体のサイズは同じ場所で観察されたコサメビタキ *M. dauurica* やマミジロキビタキ *Ficedula zanthopygia* とほぼ同じだった. 体型はコサメビタキに類似していた. 頭頂から額が暗灰色で, 後頭は暗茶褐色だった(図1). 白色のアイリングがあり, 眼先は淡い橙褐色で, 左右の眼先は眼の前でつながっていなかった(図1, 2). 喉と下頬線は眼先よりさらに淡い橙褐色だった(図1, 2). 頭頂とほぼ同色の顎線があった(図1, 2). 上背から背は後頭と同色の暗茶褐色で, 腰から上尾筒にかけては鮮やかな橙褐色だった(図1). 小翼羽, 初列雨覆, 小・中・大雨覆, 三列・次列・初列風切は黒褐色で, 中・大雨覆及び三列・次列風切には橙褐色の羽縁があり, さらに, 中・大雨覆の先端には橙褐色の斑があった(図1). 胸から腹, 下尾筒に至るまでの体下面は

* E-mail: goldcrestxmunebirds@yahoo.co.jp

doi:10.3838/jjo.65.47

JOI:JST.JSTAGE/jjo/65.47

図1. 天売島で観察された観察者の方向を向くトドマツ *Abies sachalinensis* 上のミヤマヒタキ.
Fig. 1. Ferruginous Flycatcher in an *Abies sachalinensis*, Teuri Island, Hokkaido Prefecture. Photographed by D. Aoki on 25 May 2014.

図2. 天売島で真横から観察されたミヤマヒタキ.
Fig. 2. Lateral view of Ferruginous Flycatcher, Teuri Island, Hokkaido Prefecture. Photographed by D. Aoki on 25 May 2014.

腰より淡い橙褐色だった(図1, 2)。胸と喉の境界には暗灰色の不明瞭な縦斑が並んでいた(図2)。尾羽の地色は橙褐色だったが、最外側尾羽から中央尾羽に向かって黒褐色味がかっていった(図1)。すべての尾羽の先端は淡橙褐色だった(図1)。風切羽及び尾羽は過度に摩耗していなかった(図1, 2)。嘴は頭長の1/4程度の長さだった(図2)。上嘴、下嘴ともに黒褐色で基部では水平方向に幅広く、下嘴の根元は黄色だった(図1, 2)。虹彩は暗黒褐色だった(図1, 2)。脚は短くて細く、ピンク色味を帯びる茶色で、跗蹠長は全長の1/10以下だった(図1, 2)。

7. 計測値：—

8. 種を同定した規準：コサメビタキやマミジロキビタキと体のサイズがほぼ同じであること、短く厚みがないが基部で水平方向に幅広い嘴と短く細い脚を持つこと、頭頂から額にかけて暗灰色であり、体下面が橙褐色を呈し、最外側尾羽のみ

橙褐色であることや後述するようにフライングキャッチを頻繁に行っていたことはすべてミヤマヒタキの特徴と一致することから (Ali & Ripley 1972; 五百沢ら 2000; Taylor 2006; 真木ら 2014)、本個体をミヤマヒタキと同定した。

9. 観察した行動：11時55分に、富磯沢川の砂防ダム横のトドマツの横枝にとまっているところを観察した。横枝はダムの底面から約10 m上だった。その後、トドマツ林の奥へと姿を消したが、12時5分頃に再びトドマツの樹冠に姿を現し、トドマツ、イタヤカエデ、シナノキなどを転々としつつ、時折フライキャッチをしていた。この時、本個体はそれほど大きくは移動せず、隣接する地上約20 mの樹冠を移動する程度であった。その後13時頃にミヤマヒタキがトドマツ林の奥へ移動して見えなくなったため、観察を中断したが、14時ごろに最初の発見地点から20 m離れたトドマツ林の林縁部で再発見した。一回目の観察とは異なり、林縁部の飛び出した横枝(ダムの底面からの高さ約10 m)を大きく移動しながら頻繁にフライングキャッチをしていた。観察を終了した15時頃まで、この行動を観察することができた。観察を通して本個体の声は聞くことができなかった。

10. 写真の有無：あり(図1, 2)

11. 死体・標本保管場所：—

12. 過去の記録とその文献：国内において報告された主な記録の一覧を表1に示した。本種は、1971年に長崎県の男女群島女島ではじめて記録された(日本野鳥の会 1978; 高野 1980; 日本産鳥類記録委員会 2004)。それ以降、南西諸島を中心として観察記録が相次いでおり、特に沖縄県与那国島や鹿児島県平島での記録例が多い(表1)。また、国外における分布域外の記録として、2004年6月14日に中国の内モンゴル自治区ホロンバイル市で観察されたという報告があるが (Van Norman A <http://ebird.org/ebird/view/checklist?subID=S7561225>)、種を同定した規準が示されておらず、写真や標本などの有無も不明である。

13. その他：2014年5月26日にも観察場所周辺及び島内全域で本個体の探索を行ったが、本個体は観察されなかった。

14. 考察：本種はインド北東部から中国南西部にかけて夏鳥として渡来し、海南島やマレー半島、フィリピン、インドネシア・ジャワ島などの地域で越冬する (Taylor 2006)。国内での観察記録は沖縄県与那国島、鹿児島県平島などの南西諸島が中心で、国内最北観察記録は愛知県名古屋市であっ

表 1. 国内におけるミヤマヒタキの記録.
Table 1. Records of Ferruginous Flycatcher in Japan.

No.	記録年月日	都道府県	地名	個体数	状況	出典
1	1971.4.30	長崎県	五島市男女群島女島	1	観察・撮影	日本野鳥の会 (1978), 高野 (1980), 日本産鳥類記録委員会 (2004)
2	1983.4.23–4.24	鹿児島県	十島村平島	2	観察・撮影	川路ら (1987), 日本産鳥類記録委員会 (2004)
3	1984.4.1–4.10	沖縄県	与那国町与那国島	1	観察・撮影	McWhirter et al. (1996), 日本産鳥類記録委員会 (2004)
4	1986.4.17	鹿児島県	十島村平島	1	捕獲・標識・撮影	山階鳥類研究所標識研究室 (1987), 日本産鳥類記録委員会 (2004)
5	2000.4.	沖縄県	与那国町与那国島	1	観察	沖縄野鳥研究会 (2002), 日本産鳥類記録委員会 (2004)
6	2000.4.29	沖縄県	十島村平島	1	観察・撮影	所崎 (2000), 日本産鳥類記録委員会 (2004)
7	2003.10.4	沖縄県	石垣市石垣島	1	観察	大谷 (2004)
8	2004.4.11	鹿児島県	十島村平島	1	観察・動画撮影	今井信之 私信
9	2004.5.5	山口県	萩市見島	1	観察・撮影	武下 (2005)
10	2005.4.30	鹿児島県	十島村平島	1	保護	今井信之 私信
11	2007.5.2	愛知県	名古屋市	1	観察・撮影	西三河野鳥の会愛知県鳥類目録検討委員会 (2008)
12	2008.3.24–3.25	沖縄県	沖縄島糸満市	1	観察・撮影	沖縄野鳥研究会 (2010), 比嘉邦昭 私信
13	2008.5.5	鹿児島県	十島村平島	1	観察	関ら (2011)
14	2008.10.20–10.22	沖縄県	宮古市宮古島	1	観察・撮影	久貝ら (2010), 砂川 (2011, 2014)
15	2010.4.13	鹿児島県	十島村平島	1	観察・撮影	関ら (2011), 五百澤ら (2014)
16	2010.4.14–4.15	鹿児島県	十島村悪石島	1	観察	新屋修一 私信
17	2010.4.21	鹿児島県	十島村平島	1	観察・撮影	野村芳宏 私信
18	2010.5.3	山口県	萩市見島	1	観察	見島観光協会バードウォッチング係 (2010), 池長ら (2012)
19	2012.4.18	沖縄県	宮古市宮古島	1	観察・撮影	砂川 (2014)
20	2013.4.27–4.28	沖縄県	粟国村粟国島	1	観察・撮影	比嘉邦昭・四方正良 私信, 沖縄タイムス (2013)
21	2013.4.25	長崎県	長崎市	1	観察・撮影	長崎県野鳥の会 (2013)
22	2014.3.30–4.5	長崎県	長崎市	1	観察・撮影	長崎県野鳥の会 (2014), 林田博 私信
23	2014.5.25	北海道	羽幌町天売島	1	観察・撮影	本報告

たが、北海道での記録は今回が初めてで (表 1), 国内におけるミヤマヒタキの最北端及び最東端の報告となる。なお、中国の内モンゴル自治区ホロンバイル市における記録は (Van Norman A <http://ebird.org/ebird/view/checklist?subID=S7561225>), 天売島よりもさらに緯度が高いが、内容の確実性に保証がない。天売島の約 3.5 km 東にある焼尻島の気象観測点では、観察前日の 5 月 24 日には終日南寄りの風が吹いており、13 時 20 分に最大瞬間風速 24.5 m/s の南西風が観測され (気象庁 a オンラ

イン), 日本海海上を低気圧が通過していた (気象庁 b オンライン)。天売島においても同様で、5 月 24 日の午後から夕方にかけて強い南寄りの風が吹いており、時には歩行することが困難であった。また、男女群島での記録は、渡りのコースから考えて外国産の飼鳥が不慮に逃げ出したものであろうと推測されたが (高野 1980), 本個体には風切羽及び尾羽の過度な摩耗が認められなかったことから、飼育個体ではなく野生個体であると考えられる。以上のことから、強風をはじめとした偶発

的な要因により、本個体が天売島に渡来した可能性が高いと考えられる。

本稿をまとめるにあたり、先崎理之氏には草稿初期から懇切丁寧にご指導いただいた。また今井信之氏、新屋修一氏、野村芳宏氏、四方正良氏及び匿名希望の方からは国内におけるミヤマヒタキの観察記録をご教示いただいた。特に比嘉邦昭氏は南西諸島におけるミヤマヒタキの過去の記録について、所崎 聡氏にはトカラ列島におけるミヤマヒタキの過去の記録について数多くの記録の収集にご尽力いただいた。留萌振興局産業振興部林務課の担当者には、富磯沢川の名称をご教示いただいた。見島観光協会及び宮古島市総合博物館の担当者、長崎県野鳥の会の林田 博氏には貴重な文献をご提供頂いた。また編集委員会の渡部良樹氏には投稿にあたって数多くの親身な助言をいただいた。匿名の2名の査読者には丁寧な査読をしていただき、数多くの有益なアドバイスを頂いた。更に文献収集にもご協力下さり、貴重な文献をご提供頂いた。前述した方々にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

引用文献

- Ali S & Ripley SD (1972) *Handbook of the Birds of India and Pakistan. Vol 7. Laughing Thrushes to the Mangrove Whistler*. Oxford University Press, Oxford.
- 久貝勝盛・仲地邦博・金子 進・砂川友弘・砂川栄喜・山本 昇 (2010) 宮古諸島の鳥類相。宮古島市総合博物館紀要 14: 91-114.
- 池長裕史・川上和人・柳澤紀夫 (2012) 検討種取り扱いについて。日鳥学誌 61: 158-176.
- 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸 (2000) 日本の鳥 550 山野の鳥。文一総合出版、東京。
- 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸 (2014) 新訂日本の鳥 550 山野の鳥。文一総合出版、東京。
- 川路則友・高良武信・迫 静男 (1987) トカラ列島平島における春期の鳥相。日鳥学誌 36: 47-54.
- 気象庁 a. 気象統計情報 過去の気象データ検索 焼尻 2014 年 5 月 24 日 (10 分ごとの値)。(オンライン) http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/10min_a1.php?prec_no=13&block_no=1213&year=2014&month=5&day=24&view, 参照 2014-3-6.
- 気象庁 b. 日々の天気情報 平成 26 年 5 月。(オンライン) <http://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/hibiten/index.html>, 参照 2014-11-24.
- 真木広造・大西敏一・五百沢日丸 (2014) 日本の野鳥 650. 平凡社、東京。
- McWhirter DW, Ikenaga H, Iozawa H, Shoyama M & Takehara K (1996) A checklist of birds of Okinawa prefecture with notes on recent status including hypothetical records. Bulletin of the Okinawa Prefectural Museum (22): 33-152.
- 見島観光協会バードウォッチング係 (2010) 2010 春 見島の鳥。見島観光協会バードウォッチング係、萩。
- 長崎県野鳥の会 (2013) 樺島花畑にミヤマヒタキ。野鳥だより (320): 3-5.
- 長崎県野鳥の会 (2014) ミヤマヒタキ。野鳥だより (331): 2.
- 日本産鳥類記録委員会 (2004) 日本産鳥類記録リスト (4)。日鳥学誌 53: 110-119.
- 日本野鳥の会 (1978) 昭和 52 年度環境庁委託調査特定鳥類等調査。日本野鳥の会、東京。
- 西三河野鳥の会愛知県鳥類目録検討委員会 (2008) 愛知県県内における鳥類の観察記録 2. 西三河野鳥研究年報 11: 44-47.
- 沖縄タイムス (2013) 粟国に珍鳥 85 種続々 野鳥の会が撮影。沖縄タイムス 2013 年 5 月 9 日 朝刊。
- 沖縄野鳥研究会 (2002) 沖縄の野鳥。新報出版、那覇。
- 沖縄野鳥研究会 (2010) 改訂版沖縄の野鳥。新星出版、那覇。
- 大谷 力 (2004) 沖縄県石垣島におけるヤマガラを観察記録。日鳥学誌 53: 104-106.
- 関 伸一・所崎 聡・溝口文男・高木慎介・仲村 昇・ファergus・クリスタル (2011) トカラ列島の鳥類相。森林総合研究所研究報告 10: 183-229.
- 砂川栄喜 (2011) 沖縄宮古の野鳥。ボーダーインク、那覇。
- 砂川栄喜 (2014) 2000 年 1 月から 2014 年 4 月までの宮古諸島鳥類の新記録種。宮古野鳥の会 40 周年記念誌, 31-43.
- 高野伸二 (1980) 野鳥識別ハンドブック。日本野鳥の会、東京。
- 武下雅文 (2005) 見島の初記録ミヤマヒタキ。山口野鳥 (37): 3-4.
- Taylor PB (2006) Family Muscicapidae (Old World Flycatchers). In: del Hoyo J, Elliott A & Christie DA (eds) *Handbook of the birds of the World. Vol 11. Old World Flycatchers to Old World Warblers*: 56-163. Lynx Editions, Barcelona.
- 所崎 聡 (2000) 鹿児島県におけるミヤマヒタキの観察記録。BIRDER 14(11): 66.
- 山階鳥類研究所標識研究室 (1987) 昭和 61 年度鳥類観測ステーション報告。山階鳥類研究所、我孫子。